令和6年度 東京都と大学との共同事業

誰もが安心して過ごせる

# 居場所をつくるために

先駆的な取り組みに学ぶ

4つのステップ

「住民の居場所づくりのための
ハンドブック作成」研究班

誰もが安心して過ごせる
居場所
をつくるために

先駆的な取り組みに学ぶ
4つのステップ

# もくじ


はじめに …… 1

## 居場所をつくる4つのステップ …… 2

ステップ1 仲間を集める …… 3
ステップ2 居場所を形づくる …… 5
ステップ3 居場所を支える …… 9
ステップ4 居場所を引き継ぐ …… 11

## 15の居場所 事例紹介 …… 13

事例 1 日野すみれ塾 …… 14
事例 2 ユースコミュニティー …… 16
事例 3 国分寺市プレイステーション …… 18
事例 4 だーちゃらぼ …… 20
事例 5 じぃじハウス・ばぁばキッチン …… 22
事例 6 こあら村 …… 24
事例 7 南中野ボランティアコーナー …… 26
事例 8 Cleanup & Coffee Club …… 28
事例 9 POSTO …… 30
事例 10 ふふ富士見 …… 32
事例 11 江戸川区駄菓子屋居場所 よりみち屋 …… 34
事例 12 ～人と情報の拠点～ BASE☆298 …… 36
事例 13 深”（JIN） …… 38
事例 14 ふらっと相談 暮らしの保健室たま …… 40
事例 15 TOHOいえラボ …… 42

おわりに …… 44

# はじめに

このハンドブックは、

居場所づくりを始めようと考えている方が困ったときに、

ちょっとだけ参考にしていただけることを願って

作成しています。

## ハンドブック作成のプロセス

東京都内で運営されている15か所の居場所を実際に訪ね、運営者の皆さんからお話を聞いた上で大切なポイントをまとめました。

## 私たちが考える「居場所」とは？

私たちが考える「居場所」とは、「子どもから高齢者まで、誰もが自己肯定感や安心感を持って落ち着いて過ごすことを目指す場所」です。「居場所」に集まる参加者が好きなときに好きなことをして自由に過ごせる、参加者にとってよりどころとなるコミュニティと捉えています。さまざまな方々を対象としたさまざまな目的を持つ居場所が数多くあることで、誰もが落ち着いて過ごすことができる地域社会の実現につながると思っています。

身近なところにたくさんの「居場所」があると
みんなの「よりどころ」になるんだね

# 居場所をつくる 4つのステップ

15か所の居場所の方からお話を伺い、居場所を立ち上げ、続けていくために大切となる4つのステップが分かりました。この冊子では、居場所を運営されている方々が、それぞれのステップで大切にしていた工夫をまとめました。

## ステップ1 仲間を集める

立ち上げるための最初の一歩です。
居場所が地域に必要だという強い想いを持ち、
仲間と共有することが大切です。

↓

## ステップ2 居場所を形づくる

仲間とともに必要な準備をしていきます。
情報収集、立ち寄りやすい場所の決定、
資金集め、仲間の広がりなどが大切です。

↓

## ステップ3 居場所を支える

地域の理解を得て居場所を続けていくためには、
広報、地域とつながり、地域の要望に応える、
仕組みづくりなどが大切になります。

↓

## ステップ4 居場所を引き継ぐ

居場所を長く続けていくには、
想いや活動を言葉にして次の世代に引き継ぎ、
時代の変化に対応していくことが大切です。

居場所をつくって続けていくには、
信頼できる仲間、立ち寄りやすい場所、
そして、やっぱり運営のためのお金も大切なんだね

ステップ 1

# 仲間を集める

## 1 必要性に気づく

地域に居場所が必要な課題があると気づくことが立ち上げのきっかけです。その人の強い想いが大切ですが、すでにある事業から発展していくこともあります。あなたの身近に、想いを相談できる仲間はいますか？

ポイント

### 地域の課題を認識する

- 子どもの教育格差
  ▶P14［事例1］ ▶P16［事例2］
- 子どもの貧困
  ▶P22［事例5］
- 孤立している人がいる
  ▶P28［事例8］ ▶P32［事例10］
- 高齢になっても集まれる場が必要
  ▶P36［事例12］

### 個人の想いを大切にする

- 自宅や店舗を地域のために役立てたい／還元したい
  ▶P24［事例6］ ▶P40［事例14］
- 地域で楽しくつながれる場をつくりたい
  ▶P28［事例8］
- 「自分たちのための場所」をつくりたい
  ▶P30［事例9］

### 既存の事業から発展させる

- 既存の事業をベースにスタート
  ▶P38［事例13］ ▶P42［事例15］

## ❷ 仲間と方向性を決定

居場所づくりは、同じ想いを持つ仲間と小さく始めることが大切です。大人数で始める必要はありません。同じ想いを共有する仲間と集まり、話し合いを重ねて方向性を決めていきましょう。

ポイント

### 一緒にできる仲間を探す

- 民生委員、社会福祉法人と協力する
  ▶P22［事例5］
- 創設者の理念に共感した仲間と始めた
  ▶P24［事例6］
- 「リーダー」「リーダーを支える人」「事務局」がそろえば始められる
  ▶P26［事例7］
- 仲間と始める約束をした
  ▶P28［事例8］
- 社会福祉協議会の協力を得る
  ▶P36［事例12］

### 方向性を共有する

- 教室運営のあり方を試行錯誤する
  ▶P16［事例2］
- 運営者（ボランティア）のミッションを明確化する
  ▶P16［事例2］
- 何度も話し合い、少しずつ理解を得た
  ▶P22［事例5］
- 想いを共有し、形にする
  ▶P32［事例10］
- 実行委員会を立ち上げ、議論して決定している
  ▶P36［事例12］

ステップ 2

# 居場所を形づくる

## 1 情報収集

立ち上げには「人」「場所」「お金」が必要です。居場所を形づくる最初のステップとして、まず地域の特徴を把握しましょう。あなたの地域にあなたがつくろうとしている居場所は必要でしょうか？

ポイント

### 地域の特徴を理解する

- 現状を肌身で体感する
  ▶P16［事例2］
- 子育て中の母親にニーズを聞く
  ▶P24［事例6］
- 地域のニーズを知る
  ▶P32［事例10］
- どのような世代が多いかなど地域の特徴を理解する
  ▶P38［事例13］

### 目的に合った事業展開方法を理解する

- 市の指定管理者制度を理解する
  ▶P18［事例3］
- 助成金等に関する情報を収集する
  ▶P20［事例4］ ▶P38［事例13］
- NPO法人の立ち上げ※
  ▶P20［事例4］ ▶P38［事例13］
- 他組織ともに立ち上げる
  ▶P22［事例5］ ▶P36［事例12］
- 社会福祉協議会から情報を収集する
  ▶P30［事例9］

※NPO法人には税制上の優遇措置、自治体等の無償の支援事業、補助金が充実しているため

## ❷ 場所の検討

目的に合った地域を決めたら、居場所をつくる建物として必要な広さや部屋数、バリアフリーの状況などを検討しましょう。すでに場所が決まっている場合もあるかもしれませんが、新たに探す場合は地域のキーパーソンに相談してみるとヒントが得られるかもしれません。

ポイント

### 目的に合った場所を探す

- 広さや駅からの近さなどを重視する
  ▶P20［事例4］
- 対象者が利用しやすい場所
  ▶P16［事例2］ ▶P38［事例13］
- 自然体でいられる場所
  ▶P20［事例4］ ▶P40［事例14］
- 生活を基盤とした教育施設として設置を検討する
  ▶P42［事例15］

### 紹介された場所を利用する

- 行政からの紹介
  ▶P18［事例3］ ▶P34［事例11］
- 社会福祉協議会からの紹介
  ▶P30［事例9］
- URからの紹介
  ▶P36［事例12］
- 協力組織からの紹介
  ▶P22［事例5］

### キーパーソンに相談する

- 地域の集まりに参加し、活動を紹介する
  ▶P28［事例8］
- 社会福祉士であったことで人脈や経験を活かした
  ▶P32［事例10］
- 地域のことを熟知しているキーパーソンの存在があった
  ▶P42［事例15］

## ❸ 資金集め

居場所をつくっていくには先立つものも重要になります。どのような用途で資金が必要であるかを考え、さまざまな方法で継続的に必要な資金を集められるよう計画しましょう。例えば、助成金を探す、寄付金を募る、企業に相談する、利用料金の負担などの方法があります。居場所を運営されている方には私費を投じていらっしゃる方もおられますが、リスクの少ない安定した運営ができるような資金計画は重要となります。

ポイント

### 助成金等を効果的に活用

●助成金で始めたが数年で終了するため、先を考える必要がある

▶P16［事例2］ ▶P20［事例4］
▶P38［事例13］

●助成金等には縛りがあり、自由に使いづらいところもある

▶P14［事例1］

### 行政との連携

●市の指定管理事業を活用する

▶P18［事例3］

●区との連携事業として行う

▶P34［事例11］

### 寄付金の獲得

●寄付金と他の収入

▶P18［事例3］ ▶P22［事例5］
▶P24［事例6］

●日々の寄付とイベントでの寄付

▶P36［事例12］

### 利用料金の一部負担

●収支計算をし、持続可能な活動にする

▶P26［事例7］

●活動を有料と無料で分けている

▶P32［事例10］

## 4 仲間の広がり

居場所を形づくっていく中でより多くの仲間が必要になってきます。つながりを広げ協力してもらえる仲間を増やしましょう。

ポイント

### ボランティアを集める

- SNSなどを駆使して講師を募集する
  ▶P14［事例1］
- 運営者（ボランティア）の育成システムをつくる
  ▶P16［事例2］
- ボランティアを大切にする
  ▶P18［事例3］ ▶P26［事例7］ ▶P32［事例10］
- ボランティアセンターなどを利用する
  ▶P22［事例5］

### つながりを広げる

- 場所を提供してもらえる企業や事業者があった
  ▶P16［事例2］
- 人とのつながりで広がった
  ▶P16［事例2］ ▶P28［事例8］
- 周囲に話している間に協力者が増えた
  ▶P22［事例5］
- 利用者が次第に運営に協力してくれるようになる
  ▶P24［事例6］
- 前職のネットワークを生かす
  ▶P40［事例14］

### 地域からの理解を得る

- 長年住んでいるため近隣住民との関係性がある
  ▶P24［事例6］
- 地域の方たちとの関係性をつくっていく
  ▶P38［事例13］
- おたがいさまを大事にする
  ▶P40［事例14］
- 大家さんからの説明で受け入れにつながる
  ▶P42［事例15］

# 居場所を支える

## 1 地域からの理解と新たな工夫

利用者を増やしたり、寄付を集めたりする上で、居場所があることを地域の方に知ってもらうための広報は大切です。さらに、活動の中で新しく見出した課題に対応していくことも重要になります。利用している人たちがさらに利用しやすくなるような工夫をするだけでなく、ときには柔軟に新しいことを取り入れていく姿勢も大事です。

ポイント

### 地道な広報を行う

**●口コミによる広がり**
▶P16［事例2］ ▶P24［事例6］
▶P30［事例9］ ▶P36［事例12］

**●YouTubeやSNSなどを活用する**
▶P24［事例6］ ▶P36［事例12］

**●イベントを開催する**
▶P32［事例10］ ▶P34［事例11］
▶P36［事例12］

**●情報誌を作成する**
▶P34［事例11］

**●メディアを利用する**
▶P34［事例11］

### 新たな課題に対応する

**●新たな課題に対応するために活動を広げる**
▶P18［事例3］ ▶P32［事例10］

**●当初想定していた利用者に限定しない**
▶P26［事例7］

**●交流を活性化する仕掛けをする**
▶P26［事例7］ ▶P28［事例8］

## ❷ 継続の仕組みと地域のつながりを強化する

活動の実績を積み信頼を得ることで、居場所を継続していくための行政や企業との連携・協力につながります。また他の事業と合わせた運営をするなどの仕組みづくりも有効です。居場所を始めたときの想いに立ち戻り、地域の人とのつながりを強め、広げていくことも大切になります。

ポイント

### 継続のため新たな連携・協力先を探す

●活動に共感する企業からの協力を模索する
▶P34［事例11］ ▶P38［事例13］

### 継続するための仕組みをつくる

●商品開発を企画する
▶P28［事例8］

●他事業と合わせて、安定した運営を行う
▶P24［事例6］ ▶P34［事例11］

●認知度を高め、活動への理解を得る
▶P20［事例4］

●利用者が信頼できる体制を整える
▶P22［事例5］ ▶P34［事例11］
▶P36［事例12］ ▶P38［事例13］

●自立して継続できる仕組みづくり
▶P34［事例11］ ▶P38［事例13］

### 地域とのつながりを強化する

●居場所を地域の人との活動の場として提供する
▶P30［事例9］ ▶P42［事例15］

●地域の資源を大切にする
▶P32［事例10］

●地域の人同士のピアサポートの場とする
▶P40［事例14］

ステップ 4

# 居場所を引き継ぐ

## ❶ 想いや活動を伝える言葉を工夫し目的を大切にする

居場所をつくったときの想いや理念、活動の目的を大切にしながら、誰もが理解できるように伝えられるよう工夫し続けることが居場所を引き継いでいくうえで大切です。言葉にすることで、状況が変化しても目的を見失うことなく、当初の想いに沿ってやり続けることにつながります。

ポイント

### 出会いを大切にし、想いや活動を伝える

- 人により言葉の捉え方が異なるため、どのような場所なのかを説明できるよう言語化する
  ▶P36［事例12］

- 人との出会いを大切にすること
  ▶P22［事例5］ ▶P32［事例10］
  ▶P42［事例15］

### 想いや目的を大切にし、できることをする

- 何のための活動であるかを忘れず、目的を大切にしている
  ▶P28［事例8］

- 自分たちでできることを続けていく
  ▶P14［事例1］ ▶P22［事例5］

たくさんの居場所が、
時代の変化にあわせて形を変えながら
地域に根付いていくとうれしいね

## ❷ 想いを大切に引き継ぎながら、時代にあわせて変化を続ける

居場所が長期にわたった後には、運営している人たちの高齢化などにより、引き継ぎを考えることもあるでしょう。社会状況や時代の変化に応じて、課題や居場所を利用したい人の特徴も変わっていきます。引き継ぎのときには、想いや、目的、活動を継承することと、新しい変化をキャッチし柔軟に対応していくこと、両方が大切です。居場所を引き継ぐなかで、居場所が形を変え、新たな広がりを見せるかもしれません。

ポイント

### 想いや目的、活動の継承

●創設者の理念を継承、かつての利用者が運営に関わる
▶P24［事例6］

●活動のノウハウをまとめ、共有する
▶P16［事例2］ ▶P28［事例8］

### 地域や利用者の課題の変化に対応

●利用者のニーズは時代の変化とともに変わるため、柔軟に対応する
▶P24［事例6］ ▶P34［事例11］

### 新たな広がり

●中心になっている方の引退とともに活動を終える。一方で、一緒に活動していた方が別の活動を始め、広がっている
▶P26［事例7］

●利用者層を広げる
▶P38［事例13］

# 15の居場所

## 事例紹介

東京都にあるさまざまなタイプの「居場所」を訪ね、開設の動機や想い、開設時の状況、現在の運営状況、活動の工夫や大事にしていることなどを伺いました。そのお話から、運営のポイントをまとめています。みなさんが思い描く活動に近いことをしている「居場所」はもちろん、異なるタイプであっても、参考にできることはあるかもしれません。各事例ページの冒頭には、その「居場所」が大切にしている対象者や活動の目的が示されています。少しでも興味のある「居場所」があれば、そのページを開いてみてください！

居場所を運営している人の想いや、
地域の課題、利用する人の特徴によって、
いろんな工夫やポイントがあるよ。どれも参考になるね！

対象者 ●小・中・高校生

目的 ●無料塾

事例 1

# 日野すみれ塾

DATA

運営母体　日野すみれ塾
設　立　2017年11月30日
代表者　仁藤夏子

東京都日野市
URL https://ameblo.jp/sumirejyuku/

**開設の動機や想い**

子どものときに勉強できる環境を整えることが、その後の人生にいかに影響するかを感じ、何かをしたいと考えていた。教育が大事だと想い、その必要性を感じ、すぐに行動に移したいと子育て中に無料塾を始めた。

**開設時の状況**

当初は月2回、公共の施設を借り、チラシを配布するなどして周知し始めた。利用者は、「きょうだいが多い」「お金がない」といった理由で塾に行くことができない子どもたちが中心だった。無料塾を行っている場所は少なくSNSを駆使して、講師のボランティアを集めた。

**現在の運営状況**

発達障害や不登校などさまざまな問題を抱える子どもが増えたことから、勉強以外の関わりを大事にするために生活援助や課外活動なども行っている。場所代は必要なく、講師はボランティアなので無料だが、模擬試験代、周知のための費用、生活援助などのための資金が必要なことから民間の補助金を申請している。団体での活動の場合、補助金は10万円単位であるため資金が足りず、複数の補助金を申請している。また、補助金は飲食費には使えないことが多いので、3割は寄付金で運営している。

無料塾の風景

課外活動の様子

**利用者を増やすための工夫**

現在利用している子どもたちを大切にして、現在できることを精一杯行っている。許可を得られた場合には、小学校などにチラシを配布している。

**大事にしていること**

- この居場所が必要な子どもたちが利用できるように、その子どもたちが安心できる場となるようにと考えながら、子どもたちと関わっている。

## 運営のポイント

| 仲間を集める | 居場所を形づくる | 居場所を支える | 居場所を引き継ぐ |
|---|---|---|---|
| | ● NPO法人の場合は事務作業が増えるため、団体として登録している。<br>● 行政の補助金は報告書を作成しなければならないなど非常に大変であるため、インターネットで民間の補助金を調べて申請している。 | ● 無料塾は工夫により最低限の収支でできるが、問題を抱えている子どもが多いため、勉強だけではない関わりが求められ、資金が必要となる。<br>● 補助金は使途に制限があるため、補助金7割、寄付金3割で運営している。<br>● 得意なことをするためにも、すべての子どもを受け入れることは考えず、この場に合っている子どもたちを対象としている。 | ● 何でもやろうとはせずに、自分が得意なことを大切にして、できないことはできないと伝える。 |

まずは月2回、公共の施設を借りて始めるなど小さくスタートし、徐々に活動の幅を広げていくことでうまくいったんだね！ この場所に合っている子どもたちを対象をするなど、方向性もきちんと定めているね。

対象者 ●小・中・高校生　目的 ●学習支援

事例 2

# ユースコミュニティー

DATA

運営母体　NPO法人 ユースコミュニティー
設　立　2014年10月28日
代表者　代表理事　濱住邦彦

大田区中央8-22-13
03-6312-9360
https://www.youthcommunity.net/

**開設の動機や想い**

労働組合のシンポジウムで教育格差について知り、ボランティアで学習支援活動をしている区のケースワーカー職員に感銘を受け、2012年にケースワーカー職員の活動に参加していた数人の仲間と新たに団体を立ち上げ活動を開始する。

**開設時の状況**

大田区の助成金を受け、子どもたちの学習支援を週1回から始める。最初の1年間は、生徒のレディネス（学習に必要な準備状態）がさまざまなことなどから、学習環境を合わせるのに苦労した。課題についてボランティアメンバーでディスカッションしながら、教室の在り方や運営（支援者）のリーダーマニュアルを作成していった。

**現在の運営状況**

2016年から大田区の生活困窮者支援事業による委託事業と自由塾の2種類の形態で学習支援を行っている。委託事業は中学3年生を対象とし、年3回三者面談を行い、親へのサポート、社会資源の紹介などの社会的側面への支援も実施している。自由塾は子どもたちのニーズに合わせてクラス分けをしている。支援者の配置については、受験指導や子どもの相談など、支援者の特性・長所に合わせて決めている。

カフェのような誰でも通いやすい場所

指導者リーダーマニュアルによる質保証

**利用者を増やすための工夫**

公的な施設ではなく、民間の施設でカフェのように誰でも通いやすい場所を選んだ。個々の子どもに合わせた教材を提供することで、子どもたちが手ぶらで通える環境を整えた。同窓会を開き、自身の体験や奨学金のことについて後輩たちに語ってもらった。利用者の口コミで広がっていった。

**大事にしていること**

- 利用者が参加しやすい場所の設定と環境づくりをしている。
- 学習支援の質保証のため、指導者リーダーマニュアルの作成と年に数回説明会を実施し、運営者（ボランティア）のミッションを明確にしている。
- 子どもの学習支援を契機とし、社会資源や経済支援の情報を提供するなど親への支援を行っている。
- 同じような活動を立ち上げる団体に自身のノウハウを伝えることにより、関心を持つ人や団体間での共創を目指している。

## 運営のポイント

**仲間を集める** → **居場所を形づくる** → **居場所を支える** → **居場所を引き継ぐ**

**仲間を集める**
- 現状を肌で体感する。
- 教育格差を知り、学習支援をしている活動にボランティアで参加する。

**居場所を形づくる**
- 教室の在り方について試行錯誤する。
- カフェのように利用者が参加しやすい場所の設定と環境づくりをする。
- 学習支援を通して親への支援を行う。

**居場所を支える**
- 運営者（ボランティア）のミッションを明確にする。
- 「人」「もの」「場所」に関して企業や事業者などの協力者がいた。

**居場所を引き継ぐ**
- 運営者（ボランティア）の育成システムをつくる。
- 団体間での共創を目指す。

カフェのように誰でも通いやすい場所を選ぶ、子どもたちが手ぶらで通える環境を整える、同窓会を開いて自身の体験や奨学金のことについて後輩たちに語ってもらうなど、利用者を増やすためにたくさんの工夫をしているんだね！

対象者 ●0～17歳

目的 ●子どもたちの遊び場

事例 3

# 国分寺市プレイステーション

DATA

運営母体　認定NPO法人 冒険遊び場の会
設　立　2000年1月17日
代表者　代表理事　武藤陽子

国分寺市並木町2-11-5
042-202-0017
https://www.boukenasobibanokai.or.jp/

**開設の動機や想い**

財団法人が経営難により遊び場から撤退し子どもたちの遊び場がなくなると分かり、地域の親たちが継続のために力を合わせて遊び場を引き継いだ。自分たちの子どもだけではなく、下の世代の子どもたちにも遊び場を引き継いでいきたいという想いがみんなにあったため実現できた。

**開設時の状況**

市の指定管理事業となり、市が指定した場所へ移転。建物などの施設は、市民や子どもたちとワークショップを行い、そこで出たたくさんの要望を市が取り入れてできあがった。一方、移転場所が線路の脇だったため、火おこしなどこれまでできていた遊びに制限をかける必要が出てきたが、その中でできることを工夫して行っている。

**現在の運営状況**

常勤職員3名のほか、非常勤とボランティアで運営している。建物内には親子広場があり、親子で過ごすことができる。キッチンもあり、子どもたちが料理をすることもできる。外では七輪で火おこしをしたり、秘密基地をつくったりとたくさんの遊び場がある。また、子どもたちが店番をする駄菓子屋「だがプレ」、中高生のための「夕暮れカフェ」、週末に開店する「カフェ どーにっち」などがある。

水遊びの様子

駄菓子屋に関する「子ども会議」

**利用者を増やすための工夫**

どのような対象の方に参加していただきたいかなどの目的を持って新しいことを始めている。新しい参加者の発掘と高齢者の方に知ってもらうために週末にオープンする「カフェ どーにっち」を始めた。他にも中高生が参加しやすいように17時半～20時に開店する「夕暮れカフェ」も開始した。この時間ならば不登校の子どもたちが参加できるのではと考えたが、今のところそうした子どもたちの参加は少ないため、工夫を重ねている。

**大事にしていること**

- 子ども主体を大事にしているため、いろいろなことを「子ども会議」で決めている。
- 子どもたちがやりたいことをどうしたら実現できるかを子どもたちと一緒に考えている。
- 想いを同じにするため、関わるスタッフの研修は定期的に行っている。

## 運営のポイント

**仲間を集める** → **居場所を形づくる** → **居場所を支える** → **居場所を引き継ぐ**

**仲間を集める**

- 子どもたちの遊び場がなくなると知った地域の親たちが、遊び場を引き継いでいきたいという強い想いを持って始めた。

**居場所を形づくる**

- 市の指定管理事業となる。
- 市が準備した場所で行っている。

**居場所を支える**

- 地域とのつながりを大切にしている。
- 社会福祉協議会とつながることで寄付提供をいただいている。
- 新たな課題に対応するために活動を広げる。

**居場所を引き継ぐ**

- 広げていきたいため工夫はしているが、限界も感じている。

子どもたちの遊び場としてスタートしながら、新しい参加者の発掘と高齢者の方に知ってもらうために「カフェ どーにっち」を始めたり、中高生が参加しやすいように「夕暮れカフェ」を開始したり、目的を持ってさまざまな取り組みをしているんだね！

対象者 ●小学生～20代の若者

目的 ●フリースクール
●子どもたちの居場所

事例 4

# だーちゃらぼ

DATA

運営母体　NPO法人 だーちゃらぼ
設　立　2022年1月
代表者　代表理事　松葉百合香・加納佳奈

豊島区駒込4-10-17モノリス駒込201
https://freeschooldacha.amebaownd.com/

**開設の動機や想い**

2021年に臨床心理士・公認心理師の友人とともに「心理士として地域に何ができるか」を考え、個人事業でオンラインカウンセリングを開始。無機質なカウンセリングルームではなく、子どもたちがリラックスできる家のような場所で支援したいと考えた。

**開設時の状況**

コロナ禍で対面のニーズが高まる中、最初はオンラインで子ども支援を始めたが、対面支援の重要性を感じ、家のように子どもが自由に過ごせる場所を探し始めた。

**現在の運営状況**

営業時間は平日10時～18時。不登校や発達障害を抱えた子どもたちに対して小学1年生から利用できる「フリースクールだーちゃ」や、中学生～20代若者向けの居場所「モノづくり交流スペースだちゃカフェ」を運営している。区外からの利用者が約半数を占め、現在の場所が手狭になりつつあるため、移転を検討中。

だーちゃらぼの内観

**利用者を増やすための工夫**

SNSだけでなく、口コミや区で作成したパンフレットを見て相談に来ることが多い。子どもたちが興味・関心を持てるプログラムを行うよう工夫している。

**大事にしていること**

- 子どもが自由に過ごせる雰囲気づくりを大切にし、柔軟に関わっている。
- 場所や内容も重要だが、人との信頼関係が一番大事で、子どもが楽しく過ごせるように心がけている。
- ボランティアとして関わる学生への研修も重視しており、将来同じような活動を始めてくれるとうれしい。

## 運営のポイント

### 仲間を集める

- 想いを共有する友人と一緒に始める。
- インターネットやスタートアップハブ、区民活動ネットワークを活用して、助成金や事業運営の方法に関する情報を得る。

### 居場所を形づくる

- 子どもが、自分らしく過ごせる家のような場所を探す（広さ・内装、駅からの距離、近所の理解など）。
- 区など他機関との連携を図る。
- NPOを立ち上げる。
- 助成金等の情報を収集し、応募する。
- フリースクールの認知と理解に向け、地道に取り組む。

### 居場所を支える

- フリースクールの認知度を高め、理解を得る。
- 多様なプログラムを工夫する。
- 知り合いの紹介や募集サイトでボランティアを募る。
- 話し合いの時間を大切にし、共通理解のもと活動する。
- 常に研修を受け、最新の知見を得る。
- 安定した資金確保のため、助成金申請や寄付を募る。

### 居場所を引き継ぐ

- 活動規模の拡大に伴い、新たな場所を探す。
- 学生ボランティアに想いを継承する。
- 成功した取り組み、失敗した取り組み、いずれも分析し、今後の活動に活かす。
- つくり上げたノウハウを広く共有していきたい。

同じ志を持つ友人と一緒に始めたんだね。子どもたちが安心して過ごせる環境をつくれるように、ボランティアの人たちが共通理解を持つことを大事にしているんだ。そういうボランティアの中から新しい居場所づくりの活動が生まれたらいいね！

対象者 ●子ども（小学生～高校生）とその家族

目的 ●子ども食堂

事例 5

# じぃじハウス・ばぁばキッチン

DATA

運営母体　社会福祉法人 からしだね
設　立　2017年7月
代表者　理事長　春見静子

足立区梅田7-12-15
090-4736-2141
https://jiibaa.tokyo/

**開設の動機や想い**

子ども食堂を提案した方は、長いこと民生委員として子どもの貧困対策に課題を感じ、子ども食堂の必要性を認識。周囲に相談する中で、社会福祉法人の理事長と出会い、法人の地域広域活動の一環として開設した。

**開設時の状況**

周囲の理解が得られるまで時間を要したが、子どもの貧困対策に熱心な区長や区の職員の積極的な協力が得られた。当初は区内全域を対象に広報したが、遠方だと継続的利用が難しいため、中学校区内に対象を限定した。

**現在の運営状況**

開催日は毎週水曜日16時～19時（子ども食堂）、第2土曜日正午～15時（学習支援を他の場所にて）。利用料は子ども100円、大人300円。対象はひとり親、外国籍の子どもとその保護者など。民生委員が中心となり支援活動を行っている。

「じぃじハウス・ばぁばキッチン」の内観

**利用者を増やすための工夫**

定期的にイベントを開催し、外部の人に知ってもらう機会を大切にしている。SNSでの情報発信よりも人とのつながりを大切にしている。

**大事にしていること**

- 子どもは地域で育てるという考えのもと、家庭料理を大切にしている。
- より多くの困っている子どもを助けたいが、民生委員の中には児童館など地域の仕事をしている人も多く、広げすぎると運営が難しい。
- 現在利用している子どもたちを大切にし、大学進学を目指し、長い目で見届け、サポートしたい。
- 自分たちだけでは全てを行うことができないため、社会福祉法人と民生委員が協力することで、子ども食堂が増えていくように他地域の民生委員などに提案している。

## 運営のポイント

### 仲間を集める

- 子どもの貧困を知り、子ども食堂の必要性を認識。さまざまな場所で課題意識を共有する。
- 社会福祉法人の理事長と出会う。何度も話し合う中で、少しずつ理解・協力を得る。

### 居場所を形づくる

- 活動の必要性を周囲に話す中で、協力者が増えていった。
- 町会長をはじめ、地域を巻き込む。
- 社会福祉法人の空き部屋を利用する。
- ボランティアセンターを活用し、支援者を確保する。
- 利用状況を踏まえ、対象を限定する。

### 居場所を支える

- 食材の寄付がある。
- 継続的に助成金を獲得する。
- イベントで物販し資金源とする。
- イベントを通して、活動を知ってもらう。
- 社会福祉法人の地域広域活動の一環として活動を継続する。

### 居場所を引き継ぐ

- 人とのつながりを大切にする。
- 自分たちでできることを続けていく。
- 活動についてさまざまな人に話をする。

民生委員として活動する中で子どもの貧困について知り、さまざまな場所で課題意識を共有する中で、社会福祉法人の理事長に出会い、開設につながった。自分の強い想いを積極的に周囲の人たちに伝えるのは、とても大切なことなんだね。

対象者 ●新生児～高齢者

目的 ●子育て広場

事例 6

# こあら村

DATA

運営母体　NPO法人 こあら村
設　立　2003年9月1日
代表者　理事長　嶋田朝子

大田区久が原6-26-4
03-6313-5158
URL http://home.d08.itscom.net/npokoala/

**開設の動機や想い**

自宅を地域のために役立てたいと願った創設者・高山久子さん（故人）と友人たちが、お母さんたちの支援ニーズを聞き、子どもと一緒に来て自由に過ごしてもらう場として2003年に開設した。

**開設時の状況**

4人で立ち上げ、ほぼボランティアで運営していた。月水金曜の10時～16時を出入り自由にし、知り合いの利用から始まり、看板を見た人やSNS・口コミで徐々に利用者が増えていった。

**現在の運営状況**

赤ちゃん連れで自由に来て自由にくつろぐ「赤ちゃんひろば」、小・中・高生のための放課後フリースペース「まい す ぺ～す」、子ども食堂などの活動を行っている。「まい す ぺ～す」では、好きな遊びをしたり、宿題をしたり、おしゃべりをしたり、思い思いに過ごしている。高齢者を対象にしたお茶会の開催や、レンタルスペースとして他団体の子どもの居場所も提供している。

3歳までの子どもと親を対象に、月4回開催している「赤ちゃんひろば」

月1回、弁当形式で開催している子ども食堂

「来たいときに来て、帰りたいときに帰れる」場所というコンセプトで運営している

**利用者を増やすための工夫**

「来たいときに来て、帰りたいときに帰れる」場所というコンセプトで運営している。

**大事にしていること**

- 年齢、国籍に関係なく、誰でも来られる場所をつくりたいという思いを大切にしている。
- 「赤ちゃんひろば」は、社会から孤立していると感じている親たちの居場所になれたらと考え運営している。
- お母さん（親）の話に耳を傾け、解決策を求められたら、「こういうことをやってみてもよいかも」などとできなくてもよいように柔軟性のある対応をしている。
- 「まい す ぺ〜す」は、ルールやイベントを設定せず自由に過ごしてもらう環境をつくっている。

## 運営のポイント

**仲間を集める** → **居場所を形づくる** → **居場所を支える** → **居場所を引き継ぐ**

**仲間を集める**

- 創設者・高山久子さん（故人）の理念に沿った人が集った。高山さんの生き方が周囲の人々を動かし、彼女の考えの実現に向けて行動した（近隣住民との関係性がすでにあった）。

**居場所を形づくる**

- ルールやイベントを設定せず、自由に過ごしてもらう環境をつくる。

**居場所を支える**

- お母さん（親）の話に耳を傾ける。
- 居場所の継続には「人」「場所」「お金」が必要。
- 収入源の一つにレンタルスペースがあり、不登校の子どもたちの居場所づくりの団体や社協に貸し出ししている。

**居場所を引き継ぐ**

- 時代の変遷に伴う利用者ニーズの変化を捉えて柔軟に対応する。
- 利用者が常連となりスタッフのように協力してくれる。

地域のためにという創設者の遺志を引き継いだ人たちで運営しているこあら村。赤ちゃんとその親のための「赤ちゃんひろば」、小・中・高生たちのための放課後フリースペースなど、各世代のニーズに合わせた居場所をつくる工夫をしているんだね！

対象者 ●地域住民

目的 ●区民センターを利用し、さまざまな方に居場所を提供するとともに、交流を図る

事例 7

# 南中野ボランティアコーナー

DATA

運営母体　南中野区民活動センター運営委員会
設　立　1994年5月12日
代表者　会長　浮ケ谷せつ子

中野区弥生町五丁目5番2号
03-3382-1635
http://www.nakano-minaminakano.gr.jp/

**開設の動機や想い**

30年前に区の方針でボランティアコーナーという活動が始まった。その参加者から「続けたい」という声があったため、活動が継続できるようにみんなで取り組んだ。活動している中で、参加者が新しいボランティア団体を結成し、新しい居場所を提供する活動にもつながっている。

**開設時の状況**

女性のためのミニサロンをボランティアで始め、その後、男性高齢者を対象としたランチの集い、子ども食堂なども開始した。ミニサロンでは当初茶道を行っていたが、参加者同士の交流が図られなかったため、会話が進む仕掛けづくりが大事と考え、チラシを活用したゴミ箱づくりに変更。参加者が教えあうことで会話が生まれた。

**現在の運営状況**

区民センターを利用し、ボランティアを中心に行っているため、出費は食材などの材料費が中心となっている。子ども食堂は助成金を利用し必要な物品を揃えた。今後は助成金なしで運営していくため、利用人数や原価などを考慮しながら持続可能な活動にできるよう計画している。また、年に1回バザーを行い、資金を集めている。

活動風景

**利用者を増やすための工夫**

何を目的としているのか、どんな人に参加してほしいのかなどをきちんと決め、そのためにどのようなことをやるとよいのかを考え企画している。また、参加者の方が求めていることや喜びそうなことを考え準備している。貧困の子どもを対象とした企画も、誰でも参加できる場とするなど、対象者と考えている人が参加しやすくなる工夫も行っている。

**大事にしていること**

- 新しいことを始める際は、お金の計算をしっかりし、持続できるか否かを見極めてから始めることが大事。
- ボランティアの方の居場所ともなっているため、ボランティア研修の際は会食などをして楽しい時間を過ごすことを大切にしている。
- 地元の中学校のボランティア部に手伝ってもらうなど、ボランティアを育てていくことも大事にしている。

## 運営のポイント

**仲間を集める** → **居場所を形づくる** → **居場所を支える** → **居場所を引き継ぐ**

**仲間を集める**

- リーダー、リーダーを支える人、事務局の3つの役割を担う人がいるようにしてから新しいことを始めている。

**居場所を形づくる**

- 任意団体であれば助成金を申請することができるため、規約を策定した。
- 費用を計算した上で、提供する食事の値段を決める。

**居場所を支える**

- 目的や対象に合わせて企画の内容・場所を決めるなど、仕掛けを大切にしている。
- 貧困の子どもだけではなく、誰でも利用できるようにするなど、対象者が利用しやすいイメージづくりを心がける。

**居場所を引き継ぐ**

- 高齢などでリーダーが続けられなくなったら、その活動は閉じるが、ノウハウは他の団体にも共有しているため、地域での活動は継続していく。

新しい活動を始める際は、目的や対象を明確にすることが大切。そのうえで収支計算もしっかりやって、持続可能な活動にすることが大事なんだね。そして、そういうノウハウを他団体にも共有していくことで、地域での活動の輪が広がっていくんだね。

対象者 ●地域住民（若者中心）

目的 ●ゴミ拾い活動
●交流の場

事例 8

# Cleanup＆Coffee Club

DATA

運営母体　一般社団法人 Cleanup&CoffeeClub　URL https://cleanupcoffee-club.super.site/
設　立　2023年4月（2022年2月活動開始）
代表者　代表理事 高田将吾・夏井陸

**開設の動機や想い**

コロナ禍で若年層の孤立・孤独が増えている状況の中、地域に偶然の出会いが生まれ面白い話ができる場が必要だと感じ、知人と一緒に始めた。

**開設時の状況**

知り合いのコミュニティスペースに企画を持ち込んだことがきっかけとなり、活動団体を設立するに至った。最初から「居場所をつくろう」という狙いはなかったが、コロナ禍と重なったことで、活動への共感が広がった。

**現在の運営状況**

活動に賛同するコミュニティスペースやカフェを拠点とし、地域で友達をつくる手段として、ごみ拾いとその後のコーヒータイムを楽しむ活動を開催している。豊島区池袋から始まり、現在では日本全国に広がっている。

活動風景

**利用者を増やすための工夫**

SNSで発信している。活動に参加した人が、ゴミ拾いをしながら交流をすることで仲間の輪が広がっている。

**大事にしていること**

- 単なる清掃イベントではなく、ゴミ拾いを通じて生まれるコミュニケーションを大切にしている。
- 自分がどうありたいか、どうすれば楽しく活動できるかという視点を重視して企画し、お金儲けではなくブランディングを大事にしている。
- 誰もがいつでも戻れる場所を目指している。

## 運営のポイント

### 仲間を集める

- 若年層の孤立・孤独が増加する中、地域で偶然の出会いが生まれる場の重要性を認識した。
- 職場の人に話し、考えを共有して活動を始める。
- 少人数の仲間と活動を始める約束をする。

→

### 居場所を形づくる

- 地域の集まりに参加して活動を紹介する。
- 仕事のつながりやSNSのフォロワーのつながりなどを活かす。
- 区からの委託費を活用する。

→

### 居場所を支える

- 参加者数が増加する中で、楽しさが失われつつあることを懸念し、少人数で行える方法に変更した。
- 助成金等の確保ではなく、企業とのタイアップを考える。
- 商品開発を企画する。
- 交流を活性化する仕掛けをつくる。

→

### 居場所を引き継ぐ

- 何のために行っている活動なのか、目的を見失わないようにする。
- 活動のノウハウをまとめ、資料を公開する。
- 区や企業とのコラボレーションを検討する。
- 行政や企業に頼ることなく、持続的に活動を続ける方法を模索する。

自分の考えや想いを仲間に話し、理解してくれた人たちと一緒にスタートしたんだね。活動が大きくなっても、お金儲けを求めるのではなく、「地域で楽しくつながれる場をつくりたい」という目的を見失わないようにすることが大事だね！

対象者 ●地域住民

目的 ●カフェを入口に、地域の中で立場や役割を離れて存在できる場所

事例 9

# POSTO

DATA

設　立　2018年10月
（「ほんのもり」として）
代表者　田中東朗

調布市仙川町1-19-10
090-4244-0307
https://motion-gallery.net/projects/sengawa_posto

**開設の動機や想い**

大学卒業後、企業に就職せずアルバイトで生活していた代表者たちが、「自分たちのための場所」を作った。目的や理由がなくても気軽に立ち寄れる場所は、「自分たちと地域社会との接点」になった。

**開設時の状況**

設立当初は、本を読んだり、くつろいだりできるスペースとして開かれたが、次第に訪れる人々が増え、地域の人々との交流やワークショップなどの活動も生まれた。やがて、調布市役所や社会福祉協議会との繋がりも生まれ、現在の店舗は社協の紹介で借りたものである。インターネットやSNSは利用せず、口コミによって利用者が増えていった。

**現在の運営状況**

カフェでは飲み物を提供しているが、注文は義務ではない。曜日によっては、朝食や昼食を提供する人や、外のスペースで野菜や花を販売する人もいる。カフェの奥には、工具を備えた作業スペースや自由に使える図書室があり、訪れる人々はそれぞれの目的で自由に過ごしている。

POSTO外観　さまざまな人が集う場

設立当初（ほんのもり）の外観

**利用者を増やすための工夫**

映画の上映会や、演劇の公演、ワークショップ、サークル活動など、さまざまな「きっかけ」を用意することで、自然と人が集まりやすいようにしている。また、気兼ねなく入ってこられるように、「カフェらしい外観」も大事にしている。

**大事にしていること**

- POSTOは、子どもから高齢者までが集まる「居場所」として機能しているが、運営者自身の楽しさや快適さも大切にしている。「子どもにとっていい場所は、大人にとってもいい場所である」という考え方を掲げ、訪れる人々が自由に過ごせることを重視している。

## 運営のポイント

### 仲間を集める

- ソファや本棚、机など手持ちの資源と貯金を使い、とりあえず場所を開いた。
- アルバイトの空き時間を使って交代で常駐し、外から見える位置に仕掛けを設置。
- はじめは誰も来なかったが、少しずつ近所の人々が興味を持ち、集まった。

### 居場所を形づくる

- 商業施設と狭い通路ばかりの街なかに、消費行動を前提としない空間を作った。
- 「労働者」や「消費者」という役割を脱ぎ捨てて、ただの自分でいられる場に。
- 自然な関わりが心の繋がりを生み、活動のエネルギーになった。

### 居場所を支える

- 居場所は、「居場所」として用意されるものではなく、ひとりひとりの人間とその場所の「関係性」である。
- 訪れる人が「ここは私の居場所だ」と感じて、そこに居付く。
- 訪れる人たちの活動が、その場所の固有性・具体性そのものを形成していく。

### 居場所を引き継ぐ

- 運営者が場所をできる限り存続させることは、そこを訪れる人たちの「人生の価値」を支えるための義務である。
- この町で育っている子どもたちの中にPOSTOの温かさや豊かさが記憶されていれば、自分たちがいなくなった後も、何らかの形で精神は引き継がれるだろうと考えている。

自分たちが楽しいことをしようと考えて開設した場所が、地域の高齢者から子どもまでの居場所となったというPOSTO。運営側が事業を考えようというよりも「利用者の求める形に居場所がなっていく」というのも1つのあり方だね。

対象者 ●地域住民　目的 ●居場所

事例 10

# ふふ富士見

DATA

運営母体　ふふ富士見
設　立　2023年3月
代表者　代表　宍戸美穂

調布市富士見町4-24-28
080-2527-9114
https://www.fufufujimi.org/

**開設の動機や想い**

社会福祉協議会で働いていた頃、地域で孤立している人が多く、情報が届かない、相談先が分からない、つながりを持てないという課題を強く感じていた。また、高齢化が進む地域で買い物難民や交流の場の不足が懸念されることから、気軽に立ち寄れる「安心してつながれる場」をつくる必要性を認識した。6年間仲間同士で想いを持ち続け、居場所をつくり上げた。

**開設時の状況**

運営開始にあたっては、社会福祉協議会や市職員と連携し、半年間かけて収支計画や運営内容を具体化した。また、市からの補助金を活用し、備品の購入や活動基盤の整備を行った。

**現在の運営状況**

45名のボランティアがシフトを組んで支えている。平均年齢57歳で、多くが定年後の地域住民である。活動内容は、ふふカフェやNPO法人こんぺいとう子育てひろば、体操や歌声サロン、バリアフリー映画体験会、生活の困りごとを支えるおてつだい隊など多岐にわたり、地域のニーズに応じたサービスを提供している。運営費は、カフェや活動の売上、会費などで賄い、収支を維持している。対象や活動の目的によっては無料のものもある。

ふふ富士見の外観

ランチ風景

アクティビティの様子

**利用者を増やすための工夫**

参加者を増やすために、広報誌やチラシ、SNSを活用し、情報発信を行っている。地域での口コミや幟、看板なども活用して親しみやすい印象を与え、通りすがりの人々の関心を引く工夫をしている。また、ボランティアや地域住民の声を取り入れた多様な活動を企画し、「やってみたい」と感じる人を増やしている。

**大事にしていること**

- 誰もが安心して立ち寄れる居場所をつくることを大事にしている。
- 参加者やボランティアが「また来たい」と思える雰囲気を大切にし、相談や交流が自然に生まれる環境を整えている。
- 地域住民の声を尊重し、必要なニーズに応える活動を工夫している。
- 地域資源や住民のスキルを活かし、つながりを広げることで、継続性と多様性を重視した運営を行っている。

## 運営のポイント

**仲間を集める** → **居場所を形づくる** → **居場所を支える** → **居場所を引き継ぐ**

**仲間を集める**

- 地域で孤立している人が多いことに課題を感じ、「居場所の必要性」に共感する仲間を募った。
- 社会福祉協議会時代の人脈や経験を活かし、地域住民や協力者を巻き込んだ。

**居場所を形づくる**

- 空き家活用が難航したが、地域の非営利活動法人がもつ家を提供頂き居場所を整備した。
- 補助金を活用して備品を整え、地域住民とともにカフェやランチ、体操などを開始した。

**居場所を支える**

- ボランティアの育成やシフト運営を行い、45名のメンバーで活動を支えている。
- 情報発信や地域資源との連携を強化し、持続可能な運営体制を構築した。

**居場所を引き継ぐ**

- 継続性を意識し、運営費をカフェや会費などで賄う仕組みを構築した。
- 次世代のボランティア育成に注力し、多世代が参加できる環境を整備した。

参加者だけではなく、ボランティアが「また来たい」と思える雰囲気を大切にしているから、たくさんのボランティアが活動を支えているんだね。同時に、次世代のボランティア育成に力を注ぐことで、さまざまな世代が参加できる居場所にしているんだね！

対象者 ●地域住民

目的 ●ひきこもりの方への支援

事例 11

# 江戸川区駄菓子屋居場所 よりみち屋

DATA

運営母体　株式会社ホワイトビアード
実施主体　江戸川区
設　立　2022年11月
代表者　代表取締役社長　山中光茂

江戸川区瑞江2丁目4番3号 プラウド瑞江102号
03-6638-7564
https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e091/kenko/fukushikaigo/hikikomori/dagashiyaibasyo.html

**開設の動機や想い**

医療法人の院長が精神疾患等でひきこもり状態の方たちへのケアができないかと考えた。一方で、区が令和3年度にひきこもり実態調査を行い、多くの居場所と就労を求める声に応えるため、居場所と就労の場を検討することになった。

**開設時の状況**

区が就労体験の場を駄菓子屋に決定し、ひきこもり支援をしている方々等の投票により施設名が決定した。区が公募型プロポーザルを行い駄菓子屋居場所の運営をする事業者を募った。医療法人では経営できないため、株式会社を設立した。居場所を利用している方と就労している方が、同一の場所にいるため良い影響が互いにある。

**現在の運営状況**

近所の方、遠方から来る方などたくさんの利用者がいる。不登校の子どもたちも利用している。メディアを見ての利用者も増えている。1日の利用者が40名ほどのため、8名の常勤で運営している。立ち上げから3年間は区からの委託という形で経営してきたが、赤字の状態である。今後、自立して運営できるようさまざまな努力をしている。

活動風景

**利用者を増やすための工夫**

昔ながらの駄菓子屋をイメージし、地域の方やひきこもり状態の方が安心して過ごせる居場所として、内装や入口等を工夫している。居場所では、不登校の子どもの利用から学校とつながり、特別支援学級の職業体験の受け入れも行っている。ひきこもり状態の方が訪れたくなるように、さまざまなイベントを開催する等の工夫もしている。また、活動内容を知ってもらうために情報誌を作成している。

**大事にしていること**

- ひきこもり状態の方の就労体験を行う際は、スタッフは専門家ではないため、区のひきこもり相談支援窓口の相談員と連携し、社会とのつながりと自立を支援している。また、利用者が気持ちよく過ごせるように少しずつルールをつくり、居心地のよい居場所づくりを行っている。

## 運営のポイント

### 仲間を集める

- 区がひきこもり状態の方の居場所と就労体験を行う事業を行うことを知り応募した。

### 居場所を形づくる

- 懐かしくて新しい居場所となるように内装や入口を工夫した。
- 誰でも利用できるように、ボードゲーム等をして過ごすことができる。
- ひきこもり状態の方の就労体験を行い、ひきこもり状態からの自立を支援している。

### 居場所を支える

- イベントを企画し、来所したくなる工夫をしている。
- ルールを決めて誰もが気持ちよく使えるようにする。
- 不登校児と学校をつなぐ等、地域の関係機関とのつながりを大切にする。

### 居場所を引き継ぐ

- 安定した運営のため、利用者の声を取り入れる等、事業を検討する。

ひきこもり状態の方が安心して過ごすことができる居場所としてスタートしたよりみち屋。現在では不登校の子どもたちも通うようになり、学校とのつながりも生まれているみたい。利用者を通じてどんどん地域とつながっているんだね。

対象者 ●地域住民

目的 ●地域住民の居場所

事例 12

# ～人と情報の拠点～ BASE☆298

DATA

運営母体　医療法人社団　東京石心会
設　立　2021年10月1日
（プレオープン6月14日）
代表者　実行委員会（代表：菅根浩子）

立川市若葉町4丁目25-1 37棟103号
042-537-7147
https://www.instagram.com/base_nikuya/

**開設の動機や想い**

医療や介護の制度の中で地域貢献してきた（医）東京石心会として「公的制度以外で地域でできることの『仕掛け』ができるのではないか」という思いが出発点。地域住民の多様なニーズに応えるための新たな手段として、UR都市機構から空き店舗活用の提案をもとに、地域住民とともに地域住民のための居場所を開設したいという強い思いで、設計段階から地域の方々とともに計画して実現に至った。

**開設時の状況**

当初、助成金に応募したが落選。法人から開設資金の援助とURから家賃減額の支援を受け、利用者からの寄付金で運営を開始。翌年から立川市の助成（立川市地域福祉アンテナショップ）を受けて運営している。

**現在の運営状況**

この場を利用する方々から年間100万円超の寄付が集まっている。寄付金の確保にはイベントの企画、参加型の活動、貸し壁や貸し棚が重要な役割を果たしている。運営方針は月1回の実行委員会で決定。日頃の運営は地域のボランティアが担い、大学生や多様な住民が日中の運営を支えている。毎週金曜日は地域の障害者作業所レストランメンバーが担当し、地域住民と障害のある方との交流の場にもなっている。

BASE☆298の外観

BASE☆298での交流風景

**利用者を増やすための工夫**

居場所の利用者を増やすため、地域住民に向けた多様な取り組みを行っている。音楽イベントのライブ配信や、SNSやYouTube、口コミを活用した広報活動を実施している。また、社会福祉協議会と協力し、地域や大学に対して活動内容を広める努力も続けている。さらに、利用者のニーズを把握し活動内容を明確化するため、アンケート調査も行っている。

**大事にしていること**

- 多世代が自然に交流できる場であったり、1人でも仲間とでも、あるいはその場に参加せずに自分の作品を展示できる場としてなど、利用方法に制限を設けていない。
- ボランティアとして関わる方にとっての「活躍の場」としても機能しており、地域の「行きつけのところ（BASE☆298）」があるまちに暮らしてよかったと思える場づくりを目指している。
- 活動内容の言語化や広報については、ボランティア（キャスト）交流会での意見を基に工夫を重ねている。

## 運営のポイント

**仲間を集める** → **居場所を形づくる** → **居場所を支える** → **居場所を引き継ぐ**

**仲間を集める**

- 高齢になっても地域で暮らし続けるには活動の場が必要と考え、地域包括支援センターが連携するUR都市機構、立川市、地域住民、法人の賛同を得て開設に至った。

**居場所を形づくる**

- 実行委員会で活動の方向性を決めている。
- 資金集めのためにはさまざまな苦労がある。
- 多世代のニーズにマッチするようなイベントの企画を工夫している。

**居場所を支える**

- マスコミやSNS、口コミ、イベントを通じて活動を広げている。
- 居場所運営にはボランティアの方たちが重要だが、ボランティアを探すのが大変。

**居場所を引き継ぐ**

- さらに広げていくためには活動内容の言語化が必要と考えている。
- この取り組みを東京都の催しや福祉のイベントなどで発表していく。

居場所の利用者を増やすため、音楽イベントのライブ配信やSNS・口コミを活用し、地域や大学へ情報発信など、さまざまな取り組みをしているね。居場所をつくるだけでなく、多くの人に知ってもらい、応援する仲間を増やすことも大事なんだね。

対象者 ●地域住民（始まりは高齢者）

目的 ●デジタルデバイド解消
●地域の健康増進拠点

事例 13

# 深”（JIN）

DATA

運営母体　特定非営利活動法人ソーシャルイノベーション協奏バンク（国立大学法人電気通信大学認定ベンチャー）
営業開始　2024年4月
代表者　松尾修

調布市深大寺東町6-27-28
BSIC@bankofsic.onmicrosoft.com
080-4738-8189
URL https://jin62728.my.canva.site/

**開設の動機や想い**

2021（令和3）年度から2023（令和5）年度の3年間、調布スマートシティ協議会メンバーである調布市・国立大学法人電気通信大学・アフラック生命保険株式会社が共同で実施した「つながり創出による高齢者の健康推進事業～CDC（調布・デジタル・長寿）運動」の活動の一環として始まった。

**開設時の状況**

高齢者のデジタルデバイド解消と、健康増進プログラムを通じたつながりの創出を目指し、2か所のデジタルリビングラボを開設。調布市の事業終了後、1か所を閉鎖。短期間では成果創出が難しかったため、NPO法人を設立し、残りの運営を継続。

**現在の運営状況**

気軽に立ち寄れる健康増進カフェとして運営されている。営業時間は火曜～金曜10時～16時。デジタル健康機器類の無料測定、スマホの操作方法など各種無料相談、素材にこだわったパンや飲料の販売、地元農園の朝採れ野菜の販売などを行い、居場所が自立して継続できるための仕組みづくりにチャレンジしている。

深”の内観

地域で開催されたマルシェの様子

**利用者を増やすための工夫**

SNSを利用し広報活動を行っている。スマホやデジタル機器類の無料相談や口コミをきっかけに高齢者の利用が増えている。

**大事にしていること**

- 収益や事業に偏りすぎると居場所にならないため、バランスを大切にしている。
- 行動を起こさないと何も変わらない。声をかけてみると意外と協力してくれる人はいる。
- 社会課題解決に取り組みたいと思っているビジネスパーソンがチャレンジするためのモデルケースの1つにしたいと考えている。

## 運営のポイント

### 仲間を集める

- 行政・大学・民間企業の共同事業での活動（CDC活動）を活かし、対象者を広げ多世代交流の場を展開する。
- メンバー間で活動理念を共有する。

### 居場所を形づくる

- 資金を確保する（助成金や補助金の情報収集・申請、企業からの寄付金支援）。
- 地域特性を把握し、活動しやすいエリアを選定。目的に合った場所探しが大変だった（2階は高齢者に不便など）。
- 地域住民との関係づくりが鍵。
- 菓子製造、飲食店営業の許可を取得。

### 居場所を支える

- 資金面（家賃、人件費、原材料費など）の安定的な確保を図る。
- 居場所が自立して継続できる仕組みづくりを模索する。

### 居場所を引き継ぐ

- 固定化された高齢者を中心としたメンバーで運営される居場所ではなく、世代を問わず誰もがふらっと気軽に立ち寄れる心地よい場所を目指す。

市と大学、民間企業のスマートシティの企画の一環としてスタートした居場所づくりというのが特徴的だね。収益や事業に偏りすぎると居場所にならないから、バランスを大事にしているというのもとても参考になるね！

対象者
- 認知症高齢者
- 地域住民

目的
- 地域住民の健康相談
- 通い集いの場
- フードバンク

事例 14

# ふらっと相談 暮らしの保健室たま

DATA

運営母体　株式会社たまこうき（代表　井上頌男）　昭島市宮沢町497-3
設　立　2018年（「つつじが丘介護センター」として）
　　2020年7月　宮沢の太陽
代表者　間渕由紀子

**開設の動機や想い**

息子を育ててくれた地域に還元したいという思いから、退職後の2018年に昭島つつじが丘ハイツ内のショッピングプラザの店舗を改装して病院の地域連携室を開設する。

**開設時の状況**

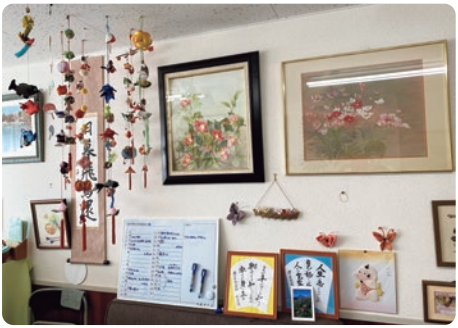
運用のための資金繰りが難航するなどして1年半で閉鎖となった。同時期に、つつじが丘団地から徒歩数分の現事業所より訪問看護部門と兼務することを条件に場所を提供してもらうことになり、2020年7月に再開した。社会福祉協議会の紹介で、地域の住民が健康相談をしたり、団地の一人暮らし高齢者が定期的な安否確認を依頼したりと利用者が定期的に訪れるようになる。

**現在の運営状況**

平日（月火水金）の午後に3～4人、多いときは10人くらいがそれぞれ好きなように過ごしている。2020年の10月からはランチ会を週1回開催している。社会福祉協議会のつながりからフードバンク事業も行い、外国人世帯や困窮世帯への配給の場となっている。

利用者はふらっと来て好きなように過ごす

毎週水曜日に行うランチ会


室内には利用者の作品を飾っている

**利用者を増やすための工夫**

病院の地域連携室長をしていたときのネットワーク、具体的には地域包括支援センターや社会福祉協議会、近隣病院、診療所、訪問看護、高齢者施設などとの顔の見える連携があり、それを活かしている。

**大事にしていること**

- 認知症の人、精神疾患の人、がんの人、ボランティアなど、この地域にいる人々が自然体でいられ、かつ地域家族として「おたがいさま」を大事にする場所でありたい。
- 相談があったときにフィジカルアセスメントと生活機能を合わせて判断し、適切なところにつなぐという、看護の専門性を発揮することも大切にしている。

## 運営のポイント

**仲間を集める** → **居場所を形づくる** → **居場所を支える** → **居場所を引き継ぐ**

**仲間を集める**

- 病院の地域連携室長時代のネットワークにより近隣の人（社会資源の運営者）とつながる。

**居場所を形づくる**

- 地域の保健室として子どもから高齢者まであらゆる年代の健康相談に対応して看護の専門性を発揮する。
- 認知症の人、精神疾患の人、がんの人、ボランティアなど、この地域にいる人々が自然体でいられる場にする。

**居場所を支える**

- 「おたがいさま」を大事にする。
- 場所とお金のやりくりが必要。

**居場所を引き継ぐ**

- 高齢者は身体は衰えるが知識は増えていく。それをお互いにシェアしていく。

病院の地域連携室長をしていたときのネットワークを活かして開設した暮らしの保健室たま。地域家族として「おたがいさま」を大事にしたピアカウンセリングによる住民同士のつながりと地域社会資源のネットワークをつなげながら活動を推進しているんだね！

対象者 ●学生 ●医療福祉職 ●地域住民

目的 ●大学と地域が一体となり人材育成を推進

事例 15

# TOHOいえラボ

DATA

運営母体　東邦大学
設　立　2014年4月
代表者　センター長・看護学部　教授
横井郁子

大田区西嶺町11-25
グランデュール西嶺103
03-6715-5278
https://www.toho-u.ac.jp/nurs/ielab/

**開設の動機や想い**

2014年に文部科学省の「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業に採択され、5年計画で発足した。地域包括ケア社会において生活者として捉える能力の育成が重要と考え、住宅街のマンションの一室を「いえラボ」学びの家として発足した。

**開設時の状況**

住宅街に「教育居場所」を設置することについて、物件の大家が民生児童委員会長であったことも功を奏し、町内会や商店街、中学校など周辺住民の理解・受け入れにつながった。事業期間の5年は、①学部、②大学院、③現任教育 について入退院支援や継続看護を柱に教育プログラムを実施し、特に介護・福祉とつながることが重要と考え、チームアプローチする際の共通認識となる基盤づくりを行った。

**現在の運営状況**

事業期間終了後の2019年には、地域連携教育支援センターが開設され大学サテライトキャンパスと承認された。看護学、医学、薬学、理学等の学部教育、助産教育等の生活者の視点を養うための教育環境を整備している。

地域専門職の研修会

看護学生の屋外アクセスを想定した実習

地域への出張ミニ講座

**利用者を増やすための工夫**

「いえラボ」周辺地域の住民を支える専門職が集まる場として、定期的にランチ会を開催したり、研修会を実施したりしている。また、地域住民の暮らしの保健室として相談業務を実施しているほか、出張ミニ講座や研修会、近隣中学生への職場体験なども開催している。

**大事にしていること**

- 大学の役割としてサテライトキャンパスをつくること、地域貢献することが求められている。
- 生活者として捉える視点を大事にした人材育成教育を目指している。

## 運営のポイント

**仲間を集める** → **居場所を形づくる** → **居場所を支える** → **居場所を引き継ぐ**

**仲間を集める**

- 地域のことを熟知しているキーパーソンの存在があった。「教育居場所」を設置した物件の大家が民生児童委員の会長だったため、大家から町内会や商店街、中学校に説明してもらい、周辺住民の理解・受け入れが進んだ。

**居場所を形づくる**

- 地域住民の個々のニーズに合わせた介入対応をする優れた地域包括支援員との出会いがあった。

**居場所を支える**

- 素朴な意見を大事にする人、人が躊躇することを実現する人、物事に対して関心をもちコミットする人、この人だから相談するという関係がネットワークを広げる。

**居場所を引き継ぐ**

- 報告書を作成したり、成果を数字で示すことで、大学運営や補助金を動かす条件に働きかける。
- 仕事プラスα（業務で割り切らない人間性）の部分を実践しているすてきな人との出会いでつながっている。

文部科学省の「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業に採択されて発足したTOHOいえラボ。現在は、大学のサテライトキャンパスと承認され、住民を支える専門職が集まる場として地域に根付いているんだね！

# おわりに

子ども、高齢者、在宅など、それぞれ専門の異なる研究者が、今求められている「居場所」について深く考える機会となりました。「居場所」と一口に言っても、その形態や運営方法は多様であり、一つの正解があるわけではないことを改めて実感しました。「居場所」は利益を追求する場ではありませんが、継続して運営していくためには収支のバランスを考えることが不可欠です。そのためには、さまざまな工夫が求められ、運営方法にも多様な選択肢があることを学びました。

また、「居場所」の目的を明確にすることで、「地域にある問題をすべて解決しなければならない」と抱え込むのではなく、適切に役割を分担し、他の支援者と連携する柔軟な姿勢が大切であることにも気づかされました。そして、運営の理念（ビジョン）に共感する仲間が集まることで、その想いが人々や場をつなぎ、次世代へと受け継がれていくのではないかと考えます。

このハンドブックが、居場所づくりに関心のある皆さまにとって役立つものとなれば幸いです。

東京都と大学との共同事業でこのような機会をいただき、新しい発見がたくさんありました。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

令和６年度 東京都と大学との共同事業

# 「住民の居場所づくりのためのハンドブック作成」研究班

| | |
|---|---|
| 冨　崎　悦　子 | 慶應義塾大学　看護医療学部 |
| 坂　井　志　麻 | 上智大学　総合人間科学部 |
| 松　浦　志　野 | 順天堂大学　医療看護学部 |
| 深　堀　浩　樹 | 慶應義塾大学　看護医療学部 |
| 内　山　映　子 | 慶應義塾大学　環境情報学部 |
| 真志田　祐理子 | 慶應義塾大学　看護医療学部 |
| 山　本　なつ紀 | 慶應義塾大学　看護医療学部 |
| 大河原　啓　文 | 上智大学　総合人間科学部 |
| 永　田　智　子 | 慶應義塾大学　看護医療学部 |

令和６年度 東京都と大学との共同事業

誰もが安心して過ごせる

# 居場所をつくるために

先駆的な取り組みに学ぶ４つのステップ

発行

「住民の居場所づくりのためのハンドブック作成」研究班